

目的 前回は日常用ガードルの機能性を被服圧、加速度等から検討したが、今回はスポーツ用ガードルについて、ガードルの歪みの分布に関する研究した。ガードルの歪みの分布を知ることにより、スポーツを行うための運動機能性の高い、又、身体整容の面からも効果的なスポーツ用ガードルの設計製作に必要有用なデータを得ることを目的とした。

方法 市販スポーツ用ガードルを用いて、人体に装着した時、静止時と運動時に生じる左半身腹部及び臀部の歪みを、トレリス法と製作したΩゲージによる測定法で測定した。水平、垂直方向の歪みを測定し、Ωゲージにおいては、電圧計、電磁オシログラフに接続し、スポーツ時のガードルの歪みを測定した。被験者は女子一名とした。

結果

	正△△△△△					トライス法 R d c b a Ω					△△△△△					年令 22才 身長 166cm 体重 60kg Waist 64cm Hip 90cm						
	a	b	c	d	e	f	R	d	c	b	a	△	a	b	c	d	e	f				
トレリス法では	43	50	50	40			33	50	50	43		△	62.6									
腹部の一一番出で	50	53	83	50			50	43	50	46			40									
いるところと、	43	60	66	56	100		(%) 56	50	43	40	43		30	540								
中でも前腸骨に	33	53	66	46	66		H.L. 50	60	68	33	43		34	500								
よって、張り出	33	50	60	50	62		50	43	26	43			148									
	front					back					静止時					運動時						

している部位に高い値がみられる。臀部、脇では、H.L.を中心にはより高い値がみられる。Ωゲージで測定した場合、静止時と比較すると、腹部上部においては正中付近は歪みが減少し、脇部において増加している。このことから一般にスポーツのねじりを含む動作時に適正なガードルを着用している場合は、脂肪の移動が観察され整容効果を示している。